

海外移住 資料館 だより

Japanese Overseas Migration Museum News No.44

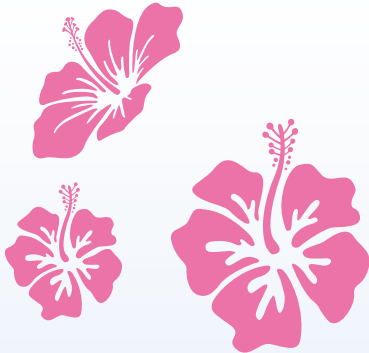
2016
Winter

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。

JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階
Tel:045-663-3257 (代) URL:<http://www.jomm.jp/>
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 朝熊由美子

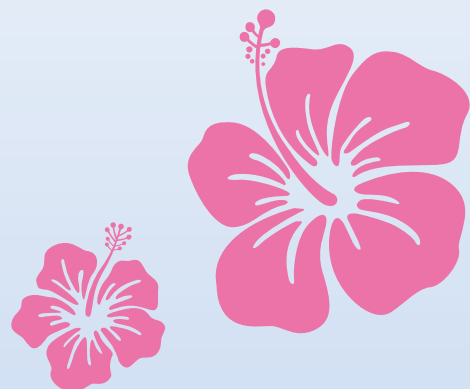
ハワイの日系人のまつり —お正月とボンダンス—



お正月用品が並ぶ日系のスーパーマーケット 写真提供：島田法子



ボンダンスの夜を待つマウイ島ラハイナ浄土院 写真提供：平川亨



ハワイの日系人のまつり —お正月とボンダンス—

2016年12月23日(金・祝)～2017年2月12日(日)

日本人の海外移住はハワイから始まりました。今でもハワイの人口のおよそ20%は日系人とされています。ハワイの日系人の多くは、お正月には初詣をし、お餅をついておせち料理を食べ、新年を祝います。夏には、毎週末、どこかでボンダンス(盆踊り)が行われ、日系人に限らずさまざまなルーツの人たちが楽しんでいるのです。日本人移民がもたらした文化は、常夏の島ハワイの風土の中で、どのように受け継がれ変容してきたのでしょうか。

当資料館では、12月23日から2017年2月12日まで、企画展示「ハワイの日系人のまつり—お正月とボンダンス—」を開催します。

ハワイの日系人が大切にしている「お正月」と「盆踊り」をとりあげ、ハワイの日系人の暮らしの中に今も息づいている「日本」を紹介します。



ハワイ金刀比羅神社・太宰府天満宮(写真:島田法子)



オアフ島ワイアレア本願寺のボンダンス会場(写真:平川亨)

ハワイのお正月

お正月の準備

ハワイの日系人にとって、お正月は日本の習慣を守り、日系人としてのアイデンティティを意識する大切な行事です。

ハワイでは、どのようにお正月の準備をし、新年を迎えているのでしょうか。

ハワイ在住の日本人、日系人が利用する日系のスーパーマーケットには、お正月用品として、もち米や日本酒、お年玉袋、鏡餅、門松などが店内に並べられています。黒豆、田づくり、きんとん、卵焼き、こぶまきなど、調理済みのおせち料理も種類が豊富で、日本のスーパーマーケットに負けないくらいに品ぞろえがよいといわれています。

仏教寺院や日系団体では、年末から年始にかけて、餅つきが行われます。

大木の少ないハワイでは、木製の

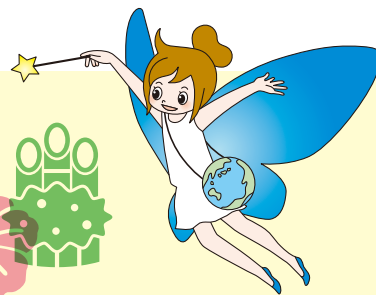
臼ではなく、火山の島らしく、火山岩でできた石臼を使います。ついた餅はお雑煮に入れたり、あんこやきなこ、大根おろし、納豆、鯉節、ピーナッツバターなどをからめたりして食べます。



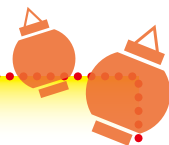
日系のスーパーマーケットはおせち料理の品揃えが豊富(写真:島田法子)



マウイ島カフルイ本願寺での餅つき(写真提供:カフルイ本願寺 協力:オノ・フィルバート)



ハワイのボンダンス



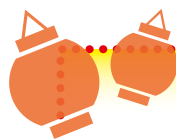
ハワイの盆踊りのはじまり

ハワイにおける最初の盆踊りは、19世紀末頃にサトウキビ・プランテーションで行われたといわれています。それは、厳しい労働と不慣れた生活を強いられた移民たちの寂しさや辛さを和らげる役目を果たしていたことでしょう。

初期のプランテーションでは、日本からの移民はまとまったコミュニティ生活を送っていませんでした。同じ出身地の仲間が集まり、故郷の盆踊りを懐かしんで始めたのが、ハワイの盆踊り文化のはじまりといえます。

1897年、浄土真宗本派本願寺(西本願寺)が本格的な布教を開始すると、他の仏教宗派も相次いでハワイ布教を開始し、各地に寺院が建設されました。

各寺院には、婦人会、青年会、日曜学校が組織され、付属の日本語学校も開設されました。寺院では、スポーツや文化行事が行われ、盆踊りも開催されるようになります。盆踊りは、各県人同士が集まって故郷の踊りだけを踊るスタイルから、出身地の異なる人々がさまざまな踊りを踊るスタイルへと変化していきました。



日系人兵士の慰霊行事として復活した盆踊り

日米開戦により、日系人の文化活動は全面的に禁止され、盆踊りを楽しむことは許されなくなりました。

戦後、盆踊りは戦死者慰霊行事として復活します。

1947年、戦死者記念碑の募金という名目で開催されると、翌48年には各地の寺院や日系団体の主催で盆踊りが行われるようになりました。

なかでも盛大だったのは、第二次世界大戦と朝鮮戦争で戦死し

たハワイ出身の日系人兵士への慰霊のため、4つの日系の退役軍人団体(第100大隊クラブ、第442退役軍人クラブ、MIS言語兵協会、第1399大隊退役兵クラブ)が合同で主催した盆踊りで、1951年8月にホノルルのアラモアナ公園で開催されました。

また、戦争で多大な犠牲を払って愛国心を証明した日系二世部隊の戦死者を称えた曲「ああ第442部隊」が作られ、盆踊り会場で盛んに演奏されました。

初詣

戦前のハワイ諸島には神社が約60社あり、お正月には初詣に訪れる多くの日本人移民でにぎわっていました。

第二次世界大戦の勃発により、日本人や日系人は敵性外国人として差別を受けます。

多くの日本人宗教家が危険人物として抑留され、アメリカ本土の強制収容所へ送られました。各地の神社は閉鎖され、アメリカ当局に没収されたり、競売にかけられたりしました。

そのような状況で、戦後、再建することは難しく、復興を果たしたのは、ヒロ大神宮、ハワイ出雲大社、ハワイ大神宮、ハワイ金刀比羅神社・太宰府天満宮、ハワイ石鐘神社、マウイ神社、マラエア恵比寿金刀比羅神社のわずか7社でした。

戦後まもなく正月を祝う行事は復活し、初詣も再び行われるようになります。

ハワイ出雲大社の初詣には、元旦だけで10,000人を越える人が訪れます。かつては、初詣客のほとんどはハワイの日系人でしたが、最近、日本のテレビで紹介された影響もあって、日本からの観光客も訪れるようになりました。お守りの種類は30



ハワイ出雲大社のマラソンお守り



初詣客でにぎわうハワイ出雲大社(写真提供:ハワイ報知)

種くらいあり、日本の出雲大社のお守り札と、ハワイ出雲大社のお守り札の両方を扱っています。お守りは、定番の縁結び、安産、厄除け、交通安全などのほか、スポーツお守りやマラソンお守りなどもあります。

他の神社でも、正月三が日にはたくさんの日系人が初詣に訪れます。

戦争で一時中断したものの、戦前から継承されてきた正月の伝統や風習は、ハワイ社会に適応する中で変容しながら、現在もハワイ日系社会に広く残っています。

日系二世部隊のルーツはハワイ

日本軍の真珠湾攻撃によって太平洋戦争が始まると、アメリカで育った日系二世は、日系人への差別の中で自身のアイデンティティに苦しみ、アメリカへ忠誠を示すことを決意します。

1942年6月、ハワイの日系二世兵士約1,400人がアメリカ本土へ送られ第100大隊と呼ばれる兵士団が組織されます。翌43年には、ハワイから志願した2,600人に本土の強制収容所から志願した800人の若者も加わり、志願した日系人のみで編成された第442連隊が編成されました。44年にヨーロッパ戦線に送られ、前年に送られ活躍していた第100大隊を編入。特に、フランスの山中でドイツ軍に包囲され孤立したテキサス州兵211人を、それを上回る800人も死傷者を出しながら、捨て身の覚悟で救出した作戦は、第442連隊の名声を不動のものとしします。

ヨーロッパから帰国した第442連隊に対し、トルーマン大統領は「諸君は敵と戦っただけでなく、差別とも戦い、そして勝ったのだ」と述べました。

また、日系兵士の中には、MIS (Military Intelligence Service: 陸軍情報部) に配属され、通訳兵として活躍した二世もいました。



第100大隊退役後の記念式典用に製作されたアロハシャツ。「百大隊」の文字と扇子や富士山などの日本的なモチーフが組み合わされている (サブロー・イシタニ氏ご遺族より寄贈)

ハワイ州 6 島で開催されているボンダンス

ハワイの夏は、ボンダンスに彩られます。6月から9月初旬までの約3カ月間は、毎週末、どこかでボンダンスが開催されています。

2016年5月20日号の『ハワイ・ヘラルド』には、ハワイ州の6島83カ所(ハワイ島27、オアフ島33、カウアイ島8、マウイ島13、ラナイ島1、モロカイ島1)で行われるボンダンスのスケジュールが掲載されています。

ハワイ島のスケジュールをみると、6月11日のホノム遍照寺で始まり、8月27日のホノヒナ本願寺まで27カ所で開催されます。ほとんどが寺院で行われるため、スケジュールには、ボンダンスの開始時間とあわせて新盆供養や灯籠流しなど盆行事の内容と時間が掲載されています。その他、太鼓や生演奏を披露する団体の名前が紹介されています。

太鼓パフォーマンスや生演奏は人気が高いので、太鼓クラブやボンダンスクラブが複数の会場に参加できるよう、各島の仏教連

盟がボンダンスの日程が重ならないように調整しています。

ボンダンス会場の中央には日本と同じように^{やくら}櫓が組まれます。日本でも定番の炭坑節や東京音頭だけでなく、ポケモン音頭のような新しい曲も流れます。

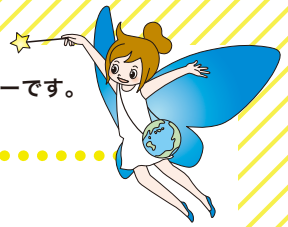
生演奏で踊る岩国音頭や福島音頭は人気で、太鼓のパフォーマンスがムードをさらに盛り上げます。櫓のまわりにはさまざまな出店が並び、スパムむすび、焼きそば、沖縄のお菓子サータンダギーなどが売られています。

これほど日系人のアイデンティティを継承する機会を提供しているイベントはないでしょう。日系人に限らずさまざまなルーツの人たちが、日本語は理解できなくても、日本語の歌に合わせて日系文化を楽しもうと、ボンダンス会場に足を運んでいるのです。



『ハワイ・ヘラルド』
(2016年5月20日号)
毎年シーズン直前にボンダンスの
スケジュールが掲載される

マウイ島ラハイナ浄土院のボンダンス。
さまざまなルーツの人が楽しんでいる



Topic-1

「大毎移民」黒田又蔵資料の寄贈式

1924年、昭和天皇御成婚記念事業として、大阪毎日新聞社(現毎日新聞大阪本社)が選抜し、渡航費を負担してブラジルへ送り出した60家族267名の移民団のことを「大毎移民」といいます。

大毎移民として移住した黒田又蔵氏のご遺族から、黒田氏へ贈られた勲五等瑞宝章、サンパウロ州フェルナンドポリス市の名誉市民証や大毎移民の契約書など、貴重な資料27点とアルバムを寄贈いただきました。

1900年熊本生まれの黒田氏は、妻と生後7カ月の長女、弟の4人で1924年8月に「かなだ丸」で移住。日系社会では、フェルナンドポリス文化体育協会会長やブラジル日本文化協会の大講堂建設委員会財務委員などを務め、地元の日本人会、宗教団体のみならず、地域社会においても貢献しました。

今回寄贈いただいた感謝状等の資料群は、日系コミュニティにおける指導者としての活動が移住先国社会でどのように評価され

たかをうかがい知る手がかりとなります。

10月21日に行われた寄贈式には、ブラジルから来日した黒田氏の四女、鈴子さんら親族や日本在住の関係者が出席しました。鈴子さんから朝熊由美子館長へ目録が手渡された後、館長から感謝状が贈られました。また、寄贈の橋渡しをいただいた二宮正人サンパウロ大学教授が、寄贈資料について時代背景を説明したほか、黒田氏とのエピソードなどを紹介しました。



寄贈式に出席した黒田鈴子さん(前列右から4人目)、朝熊館長(前列右から3人目)、二宮教授(前列左から4人目)、田中克之海外日系人協会理事長(前列左から3人目)ら関係者

Topic-2

第57回海外日系人大会 「二つのオリンピック展」パネルを展示

世界各地の日系人が集う第57回海外日系人大会が、10月24日から26日まで東京で開催され、20カ国212人の日系人が参加しました。大会主要行事となる初日の歓迎交流会会場ロビーには、今年7月から9月にかけて当資料館で開催した企画展示「二つのオリンピックスポーツがつないだ日系社会」のパネルを展示。歓迎交流会にご臨席された秋篠宮同妃両殿下もご覧になりました。



歓迎交流会にご臨席された秋篠宮同妃両殿下(寛政記念館にて)写真:仲島カルロス

Topic-4

第6回 世界のウチナンチュ大会 海外28の国と地域から 7,300人が参加

5年に一度、海外と県内外の沖縄県系人が一堂に会する「第6回世界のウチナンチュ大会」が、10月27日から30日まで沖縄県内各地で開催されました。海外からは28の国と地域から、過去最多の約7,300人が参加。当資料館の朝熊由美子館長や飯野正子学術委員長も大会主要行事に出席しました。

また、沖縄県立博物館・美術館で10月21日から12月4日まで開催された移民資料展「ウチナンチュの世越の肝心(ユークイティヌチムグル)」では、JICA沖縄の協力により、当資料館が制作した同県の海外移住の歴史パネルが展示されました。当資料館で2014年3月から5月に開催した特別展示「雄飛ー沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ」の内容を再構成したもので、沖縄県の移民の歴史と世界で活躍するウチナンチュを紹介しています。

*ウチナンチュ:沖縄ことばで沖縄の人のこと



沖縄県立博物館・美術館で開催された移民資料展

Topic-3

第9回宝島ハロウィンを開催しました



大人気のハロウィン・イベントには約1,300人が参加

子どもたちに大人気のハロウィン・イベント「第9回宝島ハロウィン」を10月30日に開催し、今年も仮装を楽しむ多くの子どもたちが来館しました。子どもたちは、南米のビスケットをもらい、手作りの衣装で魔女やドラキュラに変装した資料館ボランティアの案内で、館内を楽しく見学しました。

ますますひろがる海外とのネットワーク!

ブラジル、アルゼンチンで海外巡回展を開催

当資料館では、海外日系団体と連携して、2014年8月から10月に開催した当資料館特別展示「ララってなあに?日本を助けたおくりもの—ララ物資にみる海外日系人との絆」の巡回展を企画しています。

初の海外巡回展が、ブラジル・クリチーバのパラナ州立博物館で6月18日から8月28日まで開催されました。続いてアルゼンチンでも、9月27日から10月22日まで、首都ブエノスアイレスの在亜日本人会館ギャラリーで開催され、約700人が来場しました。

ララとは、“Licensed Agencies for Relief in Asia”(アジア救済公認団体)の頭文字(LARA)をとった略称です。終戦直後、物不足だった日本に、海外の日系人主導のもと始められたララからミルク類や衣類、学用品などが届けられました。

この展示は、ララ物資の歴史を若い世代の日系人に紹介し、日本とのつながりを再確認してもらうことを目的としています。

来年は、サンパウロのブラジル日本移民史料館で行われることになっており、アメリカ、カナダ、メキシコでも順次開催を予定しています。



初の海外巡回展となったパラナ州立博物館での展示

メキシコに待望の移住資料館が完成!

10月15日、メキシコシティに完成した「日本人メキシコ移住あかね記念館」のプレ・オープニングセレモニーが行われました。

メキシコの移住資料館建設は、2012年11月の当資料館開館10周年記念シンポジウムにおいて、パンアメリカン日系人協会の春日カルロス名誉会長が発表し、日墨協会設立60周年記念事業の一環として実現したものです。

記念館の名前は、設立に尽力した春日カルロスさんの母親で、メキシコの日本語教育に貢献した春日光子さんのペンネーム「標野あかね」からつけられました。

また、10月15、16の両日、3年に一度開かれる福岡県人会世界大会のメキシコ開催にあわせ、日墨会館メインホールで、当資料館で2016



好評だった福岡の展示

年3月から6月に開催した「ルーツは福岡 夢は世界へ〜世界で活躍する福岡移民〜」展のパネルが展示されました。

あかね記念館は、さらに資料を収集して展示内容の充実を図り、2017年10月に本オープンする予定です。



海外移住資料館周辺マップ



- 開館時間 10:00~18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料 無料

アクセス

■みなとみらい線

「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分

■JR線・市営地下鉄

「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)徒歩約15分

企画展示関連イベント

公開講座

日系人と第二次大戦—ハワイの日系アメリカ人を中心に—
講師:すずきじゅんいち「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」監督
2017年1月14日(土)
14:00~15:30 会議室1

入場無料・予約不要

映画上映

- 100年の鼓動—ハワイに渡った福島太鼓—(上映時間57分)
10:30~/14:00~
- 誰も知らない日系アメリカ人の歴史(上映時間40分)
11:30~/15:00~

開催期間中、
企画展示室にて
無料上映します。

